地域部会の取組み

1．組織のねらい

⑴　部会や委員会、関連組織の情報を共有し、地域の問題を解決するため連携を図るとともに、その実現に向けて協議を行います。

⑵　小学校区を基本とするネットワークの充実を図り、地域福祉活動や保健・医療・福祉・教育と連携した地域の役割を担うシステムづくりを協議します。

2．委員構成

自治総連合会、社会福祉協議会、ボランティア連絡協議会、民生委員・児童委員協議会、老人クラブ連合会、食生活改善推進員協議会、衛生協会連合会、小学校校長会、警察署、消防署、市民センター、行政。

3．平成20年度活動目標

⑴　地域の団体の連携

地域団体がより連携を進められるよう、
①地域連携を促進する事業等を検討・実施していきます。
②個人情報の取扱いや情報を共有するための手順などについて検討していきます。
③より多くの団体と連携を進める検討をしていきます。

⑵　若松あんしんネットワークのＰＲ

子どもからお年寄りまでが、住みなれた地域や家庭で安心していきいきと暮らしていける地域社会づくりへの取組みを行っている「若松あんしんネットワーク」と「その活動」についてホームページ等を活用して、地域住民に広報、啓発していきます。

4．平成20年度活動内容

⑴　部会開催状況

第１回８月４日(月)、第２回11月27日(木)、第３回3月17日(火)

⑵　地域連携を促進する事業の取り組み

①校区あるきing、高齢者バスハイク支援

新たに江川校区と島郷地区の２つの地域で校区あるきingを行いました。

②構成団体との連携促進と広報･啓発のための「支援･啓発ツール」の作成

支援・啓発ツールの作成 28P 資料①

構成団体の本来活動を支援するものとして「訪問カード」、「若松あんしん情報セット」を、推進協の活動をＰＲするため「啓発マグネット」、「啓発缶バッチ」、「啓発ポスター」を共同で作成しました。

また、さすまたを全市民センターに２本ずつ配置し、警察による防犯研修会を開催しました。

若松あんしん情報セット 30P 資料②
取扱説明書 32P 資料③
誕生物語 35P 資料④

これらを地域団体に活用していただくことで、安心安全な地域福祉のまちづくりを支援するとともに、連携活動を推進しました。

⑶　個人情報の取扱いについて

個人情報に関するアンケート 42P 資料⑤
啓発バッチ・マグネット 44P 資料⑥
個人情報保護に関する内閣府報告書 44P 資料⑦

これまでの活動が、平成20年内閣府「国民生活審議会個人情報部会」において、地域の特徴ある取組みとして紹介されるなど、個人情報の適正使用という目的は達成されてきていますが、現状の課題や地域の状況を把握するため、再度、地域団体に対してアンケート調査を行いました。また、啓発バッチや啓発マグネットを作成し、改めて個人情報の取り扱いについての啓発を行いました。

昨年から引き続き、個人情報出前講演を図書館ボランティア養成講座で行いました。

⑷　より多くの団体との連携について

介護保険部会の「社会資源情報のワーキンググループ」に委員等を派遣し連携を進めています。また、若松歯科医師会主催の「あんしんお口フェア」、若松薬剤師会主催の「若松健康セミナー」の事業と連携し、ＰＲ等の協力を行いました。

⑸　若松あんしんネットワークのＰＲ

若松衛生だよりへの連載 45P 資料⑧

①衛生だよりへの連載開始

平成20年11月号より、若松の地域性のある身近な話題を中心に連載を開始しました。
【若松区衛生だより＝A3-色、毎月1日発行、若松区自治会加入全世帯におおむね配布】

②ホームページを使った広報、啓発活動

地域ケア研究会のお知らせや子どもＳＯＳ情報等緊急情報をタイムリーにお知らせすることはもちろん、若松あんしんネットワークで作成した資料を広く活用していただくために、資料をダウンロードできるようにしています。

5．平成21年度の取組みの方向性

⑴　地域の団体の連携

地域団体がより連携を進められるよう、

①　地域連携を促進する事業等を検討・実施していきます。
②　個人情報の取扱いや情報を共有するための手順などについて検討していきます。
③　いのちをつなぐネットワークとの連携や活動支援を行うために、より多くの団体と連携を進める検討をしていきます。

⑵　若松あんしんネットワークのＰＲ

子どもからお年寄りまでが、住みなれた地域や家庭で安心していきいきと暮らしていける地域社会づくりへの取組みを行っている「若松あんしんネットワーク」と「その活動」についてホームページ等を活用して、地域住民に広報、啓発していきます。

「支援・啓発ツール」の作成

資料①

訪問カード

民生委員・児童委員の方々の訪問活動に活用しています。
訪問先が不在の際に差し置くことで、連絡先を伝え、次の活動に繋がり易くなります。
従来の訪問カードは、サイズが小さく目に付きづらいという声がありました。そのため、サイズをＡ５版に大きくし、見易くしたものを使用することとしました。

今までの訪問カード
（三つ折りして名刺サイズ）

新しい訪問カード
（二つ折りしてはがき大）

啓発マグネット・啓発缶バッチ

個人情報啓発、緊急連絡先案内や健康づくりや子育て支援で取組んでいる事業をマグネット、ポスター12種類、缶バッジ9種類にして啓発に活用しています。地域ケア研究会や構成団体事業、助成事業などを通じて掲示、配布しました。

さすまた配置と防犯研修会

全市民センターに、さすまたを２本ずつ配置し、市民センター館長を対象とした防犯研修会を開催しました。当日は警察の方にお越しいただき、使用方法や対処方法を学ぶことで、地域の安心安全なまちづくりを支援しました。

市民センターに配置してあるさすまた

防犯研修の様子

若松あんしん情報セットについて

資料②

1．作成目的

高齢者等を対象に緊急時に活用する家庭用リーフレット「若松区あんしんホットライン」だけでは、網羅されない救急医療情報を本人自ら又は支える人が整理し、「もしも・・・」のときの対策用の救急情報を保管するための容器セット「あんしん情報セット」を作成し、救急医療や緊急連絡等関係者の連携推進に活かします。

2．状況、背景

「若松区あんしんホットライン」は、自分自身か関係者同士で保管場所を決めるため、保管場所がまちまちで、関係者以外はその情報を共有できないという課題がありました。

また、記入枠が定められているため、情報量も更新のため書き換えできる余白も制限があるなどの課題もあり、これらを解決する必要がありました。

3．製作のねらい

・救急救命のために必要な情報の収集、整理、自覚(自分の現状の把握)
・救急救命のために必要な連絡先の確認、整理、自覚（自分と関わりのある人の把握）
・救急救命にかかる情報の保管と救急救命システムの啓発
・「もしも･･･」の際の救急救命情報の関係者の共有と連携推進

4．対象、配布

・若松区民医学講座の参加者に試験配布しました。今後は若松区に住む高齢者、障害者、健康上不安を抱える人や、独り暮らしや共働きなどで独りでいることが多い人を対象に申請により対応していく予定です。

5．製作個数

2,000個製作（第1弾として1,000個製作。2月28日開催の医学講座で600個配布。3月末に1,000個追加製作）

6．あんしん情報セットに同封されているもの

□専用容器（あんしんボトル）
□保管するもの一覧表（▼写真、▼保険証(写)、▼服薬・お薬手帳(写)、▼診察券(写)等）
□救急シート　□取扱説明書Ｑ＆Ａ集
□ドア用ステッカー　□冷蔵庫用マグネット（522-9999啓発を兼ねる）
□収容袋　□救急携帯カード　□若松区あんしんホットライン(家庭用)
□アンケート用紙

7．使い方

①救急シートに必要な事項を記入し、情報の共有に同意→②必要な情報を専用容器「あんしんボトル」に入れ、冷蔵庫の指定場所に保管→③冷蔵庫に指定のマグネットを添付、④玄関ドアの内側の指定場所にステッカーを掲示

なお、情報に変更があれば随時更新し差し替えていきます。

8．想定している活用の流れ

「もしも…」の場合に連絡を受け駆けつけた人が、その場にいる本人又は同居人の同意なくても、その場で冷蔵庫から専用容器「あんしんボトル」を取り出し、情報を活用します。

この緊急時に駆けつける人とは医療関係者、民生委員・児童委員等地域福祉関係者、ヘルパー等福祉施設関係者、救命救急士等救命救急関係者、その他自治会等地域で見守り活動を行っている者を想定しています。あんしんボトルを準備していたからといって、必ず活用されるものではありません。また、活用されなかったことによる保障や悪用されたときの保障等は関係者及び関係団体は一切負わないことに了承いただき、利用していただくことになります。

9．他都市の事例、状況

救急医療情報を冷蔵庫で保管する制度は、平成20年5月に東京都港区で始められたものです。現在では港区の例にならい、北海道夕張市、東京都日の出町でも同様の取組みを行っています。

10. 若松区版の特色

東京都港区の制度を参考に、若松区版は次のような工夫をしています。

①既製品を活用し、製作コストを抑える（タッパーにシールを貼りました。）
②収容袋の活用により、・複数の情報を保管、・袋に名前を記入し誰の情報か判るように配慮、・情報が分散しない、・個人情報の保護に配慮
③冷蔵庫に貼るマグネットは、休日･夜間の522-9999の啓発も兼ねている
④携帯用の救急携帯カードの整理で、外出時もあんしん
⑤若松区あんしんホットラインの併用で緊急連絡先の一覧も常備
⑥応急処置の手引きの併用で、119通報から応急処置の仕方まで啓発
⑦救急情報は救命救急士だけでなく、地域の見守り等支える関係者を含め救命に携わる人が利用することができる。
⑧Ｑ＆Ａ集を同封し、必要な情報収集の仕方や連絡先の決め方など高齢者にわかりやすく解説

取扱説明書
32P 資料③
誕生物語
35P 資料④

あんしん情報セットパンフレット

資料③

若松あんしんネットワーク

高齢者・障害者・一人暮らしの不安も「へのかっぱ」!!

若松 あんしん 情報セット

パーソナル情報を整理して万一の緊急事態に備えよう

冷蔵庫で かっぱを飼おう

「若松あんしん情報セット」とは自分自身の情報を整理して万一の緊急事態に備えるための道具がセットになったものです。

若松区で安心して暮らしたい。それなら「かっぱ」を飼おう。「かっぱ」と暮らそう。

若松あんしんネットワーク

かっぱの飼い方 HOW TO

飼育書

1. リーフレットと取扱説明書をよく読み、仕組みを理解する。

準備

2. 同封の「救急シート」に記入するため、必要な情報を集める。あなたに役立つ順位の高いものから記入し、最後に、連絡を受けてかけつけた人が活用できるよう、同意欄に署名する。
3. 「写真、診察券、投薬情報」等の情報を集め、必要に応じてコピーする。
4. 「❷の救急シート」「❸の医療情報」を専用袋に入れて、あなたの名前を記入する。

飼育場所

5. 専用袋をまるめて「A専用容器」に入れ、ふたを閉め、自宅の冷蔵庫に保管する。

6. 「掲示用マグネット」を冷蔵庫に貼る。かかりつけ医の連絡先を、白色部に書き入れる。

飼育証明

7. 「掲示用シール」を玄関ドアの室内側に貼る。

8. 「❷の救急シート」の情報を「B救急携帯カード」と「C若松区あんしんホットライン」に転記する。

日常の世話

9. 「B救急携帯カード」は、財布に入れ携帯し、「C若松区あんしんホットライン」は「D応急手当のてびき」と一緒に電話近くに常備して、セット完了。

10. あなたの情報が変ったら、保管している情報も変更する。

若松あんしんネットワーク

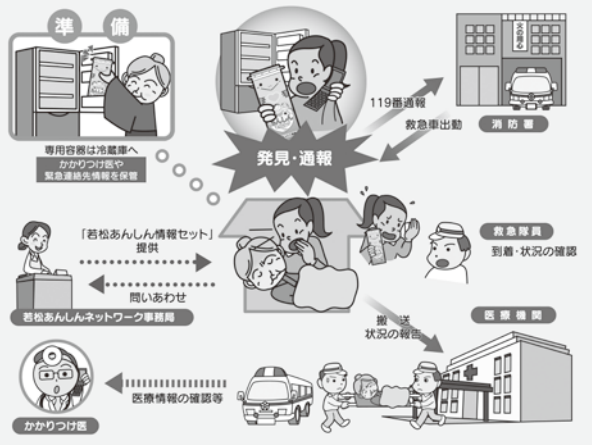
「若松あんしん情報セット」利用の目的

高齢者等を対象に自分自身の医療情報や緊急時の連絡先を整理し、「もしも…」の緊急時に役立つ情報を備えておくことを目的に、A医療情報を保管するための専用容器、B外出時に役立つ携帯カード、C困った時に役立つ緊急連絡先一覧表、D応急手当のてびき、以上の4つをまとめた「若松あんしん情報セット」を作成・配布し、救護活動や関係者の連携促進に活かすものです。救急時に必要な情報を収集、整理し、自分自身と関わりのある人の把握を行うことで、万一の緊急事態に備えます。

若松あんしん情報セット 活用イメージ

【連絡を受けてかけつけた人】
■家族・医師・救急隊員等　■民生委員等社会福祉関係者
■ヘルパー等福祉施設関係者　■自治会等地域で活動する人

必要な情報を収集するため、必要に応じてA専用容器を活用します。本人が状況を伝えられないときはA専用容器の情報を元に救急隊員に伝えます。



〈利用対象者〉
若松区に住む ❶高齢者 ❷障害者 ❸健康上不安を抱える人 等

若松あんしんネットワーク

「若松あんしん情報セット」に含まれるもの

A 専用容器とは

高齢者等の安全安心に資することを目的に、緊急時に必要な情報を専用容器に入れ、自宅の冷蔵庫に保管しておくことで万一の事態に備えるものです。
この容器は連絡を受けてかけつけた人が緊急の際に活用することで、救命のための迅速な連携が期待されます。(樹脂製)

一人のときにも安心!

B 救急携帯カードとは

外出時等の「もしも…」の際に備えておく携帯カードです。
緊急時に必要な医療情報や連絡先をカードに記入し、財布などに入れて持ち歩けるようにしたものです。

外出時も安心!

C 若松区あんしんホットラインとは

あなた自身や家族が困ったとき、また、緊急時に役立つ便利な連絡先が、まとめられているリーフレットです。
裏面には、あなた自身のホットラインや、地域の方々の連絡先を記入する欄があります。
(A4リーフレット)

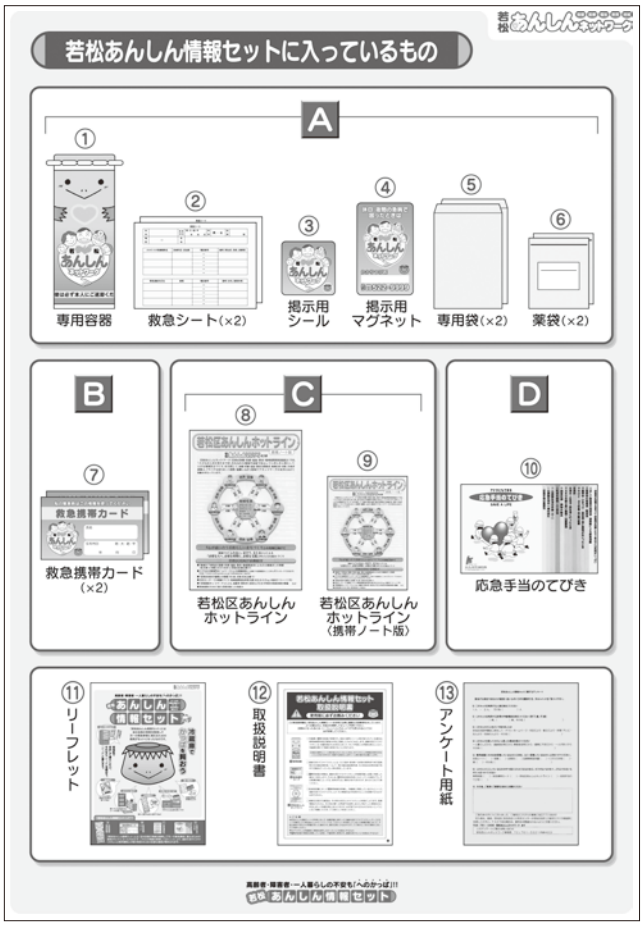
困った時にも安心!

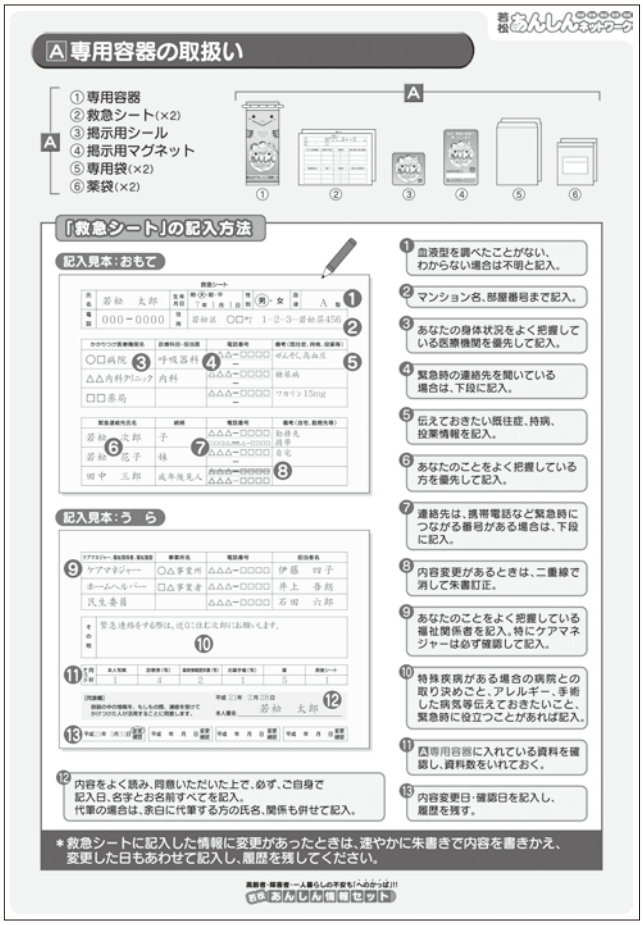
D 応急手当のてびきとは

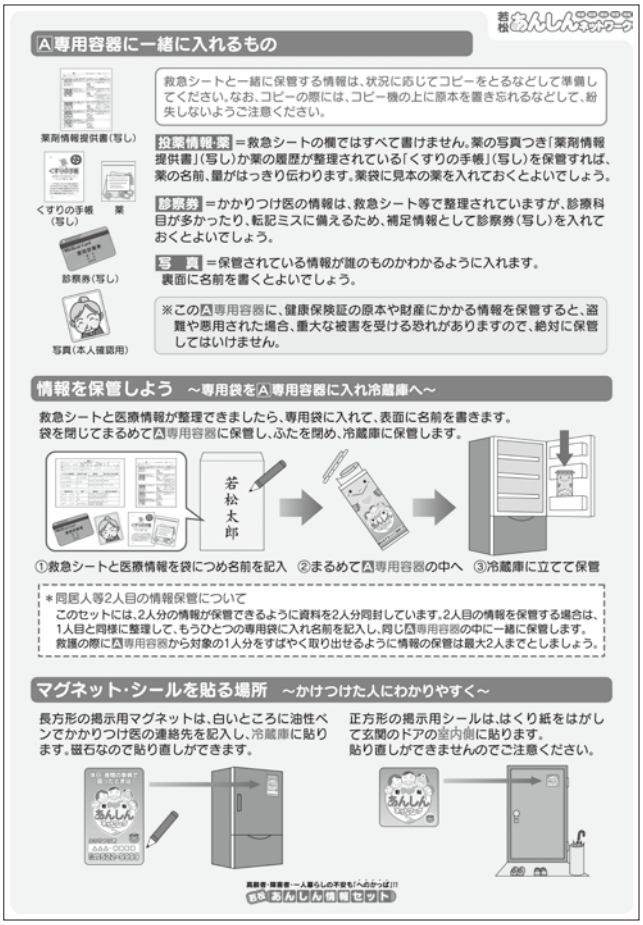
119番通報の仕方や救急車が到着するまでに行うべき応急手当、AEDの使い方を紹介したてびき書で、市消防局の許可を得て増刷したものです。(表A5、カラー、26ページ)

緊急時にも安心!

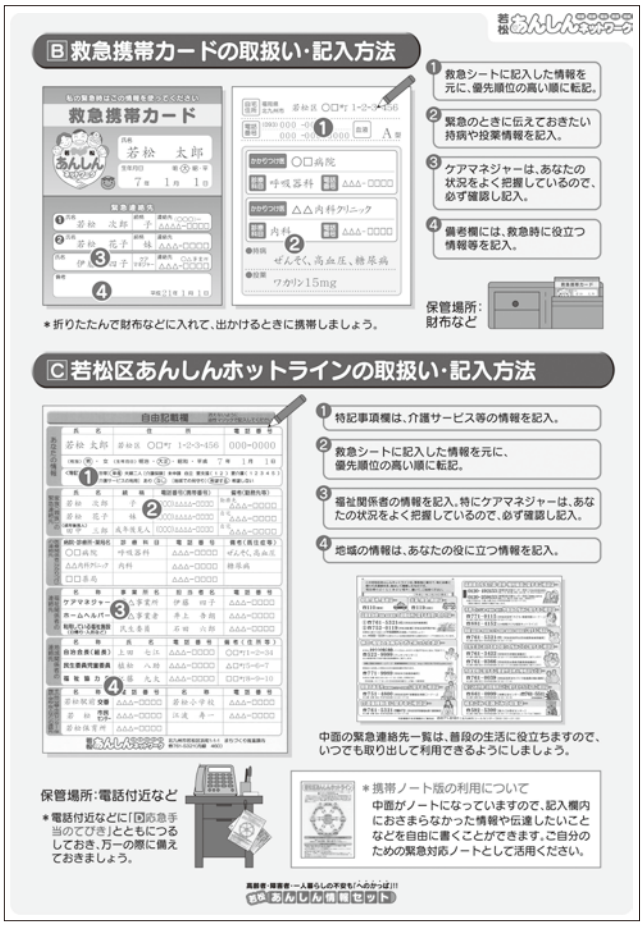
あんしん情報セットパンフレット







あんしん情報セットパンフレット



若松あんしんネットワーク

B 救急携帯カードの取扱い・記入方法

救急携帯カード

若松 太郎

7年 1月 1日

緊急連絡先

① 若松 次郎 子 △△△△-□□□□

② 若松 花子 妹 △△△△-□□□□

③ 伊藤 四子 ケアマネジャー △△△-□□□□

④

かかりつけ医 ○□病院 呼吸器科 △△△-□□□□

かかりつけ医 △△内科クリニック 内科 △△△-□□□□

●特病 ぜんそく、高血圧、糖尿病

●投薬 ワカリン15mg

❶ 救急シートに記入した情報を元に、優先順位の高い順に転記。

❷ 緊急のときに伝えておきたい持病や投薬情報を記入。

❸ ケアマネジャーは、あなたの状況をよく把握しているので、必ず確認し記入。

❹ 備考欄には、救急時に役立つ情報等を記入。

＊折りたたんで財布などに入れて、出かけるときに携帯しましょう。

保管場所：財布など

C 若松区あんしんホットラインの取扱い・記入方法

自由記載欄

若松 太郎 若松区 □□町 1-2-3-456 000-0000

① 若松 次郎 子 □□△△△△-□□□□

② 若松 花子 妹 □□△△△△-□□□□

伊藤 四子 ケアマネジャー 事業所名 伊藤 四子 △△△-□□□□

③ ホームヘルパー 入浴介護 井上 春樹 △△△-□□□□

訪問リハビリ 理学療法士 理学療法士 石田 六郎 △△△-□□□□

④ 自治会長(組長) 上田 七江 △△△-□□□□ □□町1-2-34

民生委員児童委員 植松 八郎 △△△-□□□□ △□町5-6-7

福祉協力員 藤 九美 △△△-□□□□ □□町8-9-10

若松民生病院 △△△-□□□□

若松小学校 △△△-□□□□

若松保育所 △△△-□□□□

❶ 特記事項欄は、介護サービス等の情報を記入。

❷ 救急シートに記入した情報を元に、優先順位の高い順に転記。

❸ 福祉関係者の情報を記入。特にケアマネジャーは、あなたの状況をよく把握しているので、必ず確認し記入。

❹ 地域の情報は、あなたの役に立つ情報を記入。

中面の緊急連絡先一覧は、普段の生活に役立ちますので、いつでも取り出して利用できるようにしましょう。

保管場所：電話付近など

＊電話付近などに「①応急手当のてびき」とともにつるしておき、万一の際に備えておきましょう。

＊携帯ノート版の利用について

中面がノートになっていますので、記入欄内におさまらなかった情報や伝達したいことなどを自由に書くことができます。ご自分のための緊急対応ノートとして活用ください。

高齢者・障害者一人暮らしの不安を「へのかっぱ」!!

若松あんしん情報セット

若松あんしんネットワーク

困ったときには Q&A

Q 専用容器を備えることで、救急時の対応を保証するような行政サービスですか？

A これを使うことで行政サービスが受けられるといったものではありません。若松あんしんネットワークが、救急救命時に役立つ道具として製作したものです。万一に備えておきたい人が自分自身の責任で情報を準備します。その情報を緊急の際、連絡を受けてかけつけた人が救護活動に役立てるものです。
若松あんしんネットワークでは、この道具の目的と活用について連携の協力を得るために、関係機関・団体に情報を提供して連携を進めています。

Q 専用容器はどういった人が使用しますか？

A あなたの緊急連絡を受けてかけつけた人ですので、信用のおける人か、救護活動に関わる人と考えられます。救急隊員に必要な情報を提供するため、一般的には、同居人や家族はもちろん、地域の福祉関係者や行政などの人ちがかけつけると考えられます。
また、一人暮らしの方のもとへかけつけた時に、本人の意識がなく、情報が得られない場合は、救急隊自身が活用することがあるかもしれません。

Q 専用容器は、どういったときに利用されるのですか？

A 専用容器は、連絡を受けてかけつけた人があなたの救命のために情報が不足している場合の最後の手段として活用することを想定しています。あなた自身や同居人等により必要な情報が得られる場合は、使用されません。

Q 救急シートに情報を記入したのに、診察券や投薬情報の写しを入れるのはなぜですか？

A 救急シートだけでは、記入欄が限られているため、情報補完用や転記ミスがあった場合に備えて入れておきます。特に投薬情報は、薬の名前、量など多くの情報が必要になります。
原本を入れておくか写しにするかは、あなたの判断にお任せしますが、書くよりも写しを保管する方が簡単です。写しの際に原本をコピー機の上に忘れないようにご注意ください。

Q 救急シートに伝言を書いていましたが、実行されていません。

A 情報を活用した際はあなたの救命活動を優先しています。情報を活用する範囲は、その時の状況とかけつけた人の判断によります。
例えば、搬送先の医療機関は、本人の状態や受け入れ先の状況等により決められますので、かかりつけ医療機関が記入されていたとしてもそこに優先的に搬送されるものではありません。あなたが記入した情報を元に状況に応じて救護活動に役立てますが、希望や伝言等が書かれていても、必ず実行されることではないということをご理解ください。

Q 家族や親族が身近にいなくて、連絡先が書けないのですが。

A お友達や地域の方に緊急連絡先になってもらえるよう、普段から話し合っておくとよいでしょう。
あなたの地域の民生委員・児童委員は、あなたのよき相談相手です。また、あなたの友達が緊急連絡先を引き受けてくれたならば、もちろんあなた自身も友達の緊急連絡先になり、お互いに支えあうようにしましょう。介護サービスを受けている方にとって、ケアマネジャーは、あなたの情報をまとめて把握している方ですので、必ず、記入しておいてください。

Q 専用容器に入れたいものがあるのですが。

A 例示された以外のものを入れると、必要な情報が取り出しにくくなり、救護活動の妨げになるおそれがあります。救急用の情報と割り切り、余計なものは入れない方がよいでしょう。
特に財産に関わる情報は、不審者によって悪用されると重大な被害につながる恐れがありますので絶対にやめましょう。

Q なぜ冷蔵庫に保管するのですか？

A 保管場所を固定して救急時に必要な情報を発見しやすくするためです。なぜなら、連絡を受けてかけつけた人がすぐに情報を探し出す必要があるからです。
そのための最適な保管場所がどこの家にも台所あたりにある冷蔵庫です。冷蔵庫は、来客者が来ても勝手におさがしをしないため、他の保管場所に比べてプライバシーが守られやすい場所と考えています。

Q 専用容器に保管した情報を管理する上で注意点はありますか？

A 保管する情報は、あなたを助けてくれる情報であると同時に悪用されると重大な損害を受ける可能性のあるプライバシー情報です。あなた自身が保管している情報なので誰も守ってくれません。これらの情報は、すべて自己の責任において管理するようになりますので、記入する内容や保管には十分注意が必要です。
特に、この専用容器が活用されるということは、悪意を持った者に狙われるおそれがあると常に意識しておくことが大切です。

Q 同意欄やシール掲示に意味がありますか？

A 同意欄の記入とシール等の掲示により、保管している情報の第三者使用の同意が得られたものとみなし、本人及び同居人の同意を得ることなく、冷蔵庫を開けて情報を取り出せます。もしも、同意欄の記入やシール等の掲示がなければ、かけつけた人が冷蔵庫を開けたり、情報を見つけて活用したりできなくなるおそれがあります。

Q 連絡を受けてかけつけたのですが、まずは、どうしたらよいですか？

A まず、本人の状況を確認し、緊急の必要があれば119番通報します。「①応急手当のてびき」に通報の仕方や救急車が到着するまでの応急手当の仕方がありますので参考にしてください。
本人が病状を言える状況でなければ、あなたが代わって救急隊に状況を伝える必要があります。専用容器を備えている証である玄関室内側のシールを確認したら、冷蔵庫を開け、専用容器を取り出し、救護活動に役立ててください。
なお、情報を使用した後は、専用容器ごと元の場所に戻してください。

Q 3人以上の世帯ではどうしたらよいですか？

A このセットのうち専用容器の活用は、同世帯に2人以下で生活している高齢者や障害者、健康上不安を抱えている人を対象としています。なぜなら、3人以上の世帯であれば緊急時に誰かが情報を伝えることができると考えられるからです。
ただし、1人暮らしの方や長時間1人でいることが多い状況では、必要な場合もありますので、個別にご相談ください。

Q 若松区以外に住む人にあげたいのですが。

A このセットは、若松あんしんネットワークが製作して配布したものです。そのため、この目的と活用方法を理解しているのは、若松区の関係団体に限ります。もし、他区や他市で使用されても、専用容器が冷蔵庫に保管されていることも医療情報が整理されていることも知られていませんので、若松区以外での使用は、その目的が果たせません。

Q これまで使ってきた「若松区あんしんホットライン」だけではだめですか？

A 平成16年度より、救護活動につなげるリーフレットとして活用していますが、①保管する場所が一定でないので緊急時に探せない、②記入欄に制限があるので更新されにくい、③記入情報が新しいのかさいのかわからない、ことが課題でした。今回それを補完するために専用容器を準備しました。記入している情報は、おおむね同じですが、周方準備しておくことで緊急時の備えがより万全になります。専用容器は冷蔵庫に、ホットラインは電話近くに置いておくとよいでしょう。

高齢者・障害者一人暮らしの不安を「へのかっぱ」!!

若松あんしん情報セット

あんしん情報セット誕生物語

資料④

①

若松あんしん情報セット

ぼくは若松で生まれたよ
なにができるのか
おしえちゃお

誕生物語

**ぼくは、どうしてうまれてきたのだろう。
それは、今、必然だったのかもしれない。**

②

保健、医療、福祉と地域が連携をとるために、平成16年度より C 若松区あんしんホットラインが活躍していたんだけど、緊急のときに

①置き場所が決まってないので探せない
②情報を書く欄が少ない。足りない。
③情報が更新されにくい

ということが問題になっていたらしいんだ。

ココにあるけど誰もがわからない

③

課題を解決しよう

では、あんしん救急ステッカーなんてものをつくったらどうでしょう?

情報を保管している場所を表すステッカーをはります

いろいろ考えてくれたんだあ。でも、まだ、生まれそうもないなあ。

④

そこで、この問題を解決するために、若松あんしんネットワークでいろいろ考えていたんだって
最初は、「あんしん救急ステッカー」。
救急に関わるほかの情報を集め保管した場所にあり場所を知らせる、ステッカーを貼るものだったらしい。でもこれだと

①ステッカーを探すのが大変
②通帳など財産も一緒に保管しそう
③救急情報があるからどうしたいかわからない

といった問題が生まれ、
①固定化した保管場所の検討
②悪用防止のための対策
のため、デザインも
シンプルになっていった。

▲これだと情報のありかがわかる

▲これだとなんかわからないが関係者は、わかる

ココで行き詰まるのかア

あんしん情報セット誕生物語

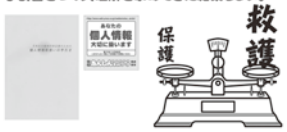
⑤

④もうひとつの厚き壁

個人情報保護

かっぱの世界では、考えられませんねえ。ひとと人は、信頼できないんでしょうか。かっぱと人なら信頼しあえるでしょうか。

もうひとつ、壁になっていたのが個人情報保護に対する過剰反応。先進地は情報を扱えるのは限られた人だったが、「かけつけた状況やかけつける人」は、その対象の人とは限らない。
やはり、こういった情報は、限られた人だけしか使えないよりも、地域で支えあっている人たちでも救護活動のためなら役立てられるようになった方がいいからね。
そこで若松あんしん情報キットは、あくまで自己の責任において情報を管理することを主体として、連絡を受けてかけつけた人が救護活動のときに使えるようにしたんだって。これも平成17年度より、若松区では自治会等地域の活動でも個人情報に十分配慮し取扱いができるよう、研修会を行ったり、手引書をつくり、理解を求めてきた結果らしい。



ココで終わるのか。これで最後かア

⑥

もうひとつ、壁になったのが個人情報保護に対する過剰反応。先進地は情報を扱えるのは、限られた人だったが、若松区では「かけつけた状況やかけつける人」は、その対象の人とは限らない。地域の見守りを考えると、こういった情報は、限られた人だけしか使えないよりも、地域で支えあっている人たちでも救護活動のためなら役立てられるようになった方がいい。
そこで「若松あんしん情報キット」は、あくまで利用者の自己の責任において情報を管理するとして、連絡を受けてかけつけた人が救護活動のときに使えるようにしたんだって。これも平成17年度より、若松区では自治会等地域の活動でも個人情報に十分配慮し取扱いができるよう、研修会を行ったり、手引書をつくり、理解を求めてきた結果らしい。

壁は壊れたア！もう少しがんばって

⑦

東京都港区にすごいものが

日本初、冷蔵庫に情報を保管し、救急時に救急隊員が活用！
平成20年に事業開始！！

かっぱの頭から皿…（目からうろこの例え）というくらい、びっくりして、すぐに頭を押さえました。助かった。

⑧

平成20年10月までに約2800個が活用されているという。同様の仕組みが、北海道夕張市、東京都日の出町でも行われるようになった。

担当者に話を伺った結果、基本的な仕組みは、高齢者が救急情報を保管し、緊急の際に救急隊員がその情報を活用するといった行政の新たな仕組みであった。予算は、およそ1千万円。うちは任意団体、予算はわずかだ！果たしてできるのか！

この仕組みをリスペクトしたい

あんしん情報セット誕生物語

⑨

リスペクトしてみた

要するに同じようなもの
を試作品でつくろうと
まねしてみたということ

大きいの小さいの太いの細いのとたくさんの仲間たちが集められ、ボクもその一人だった。

⑩

茶筒、マー○ルチョコケース、タッパ、シューター、スルメの入れ物等容器はなんでも集められた。しかし、通常の家庭の冷蔵庫は、すでに食べ物飲み物でいっぱいだ。それでも冷蔵庫に容器を保管してくれるには、何かが必要!。

先輩を見てみると
ふたがねじ締め式だと、書類が引っかかるので、港区は特注で製作した。
→うちは限られた予算のため、ねじ式はあきらめた。既製品をうまく利用して、ひっかからないものとしてタッパ製品か茶筒が最終候補に。色々な検討をしているときに救世主が・・・一言

元は片栗粉いれ
なんですけどねえ

あっ!かっぱの皿だ!

⑪

かっぱ誕生!

右端の釘の刺さったものも。
その印で何人分入っているか
わかるんだって

いっぱいの兄弟の中からボクが選ばれたんだ。だってボクが一番あっていたんだ。一番だよ。

⑫

かっぱものがたり

若松区では、昔、水辺にかっぱが住んでいたそうな。すでに、若松区のかっぱも他の地域と同様、環境汚染により自然界に住みにくくなっていたそうな。かっぱも昔は悪さをしておったが、今では改心し、共存の道を探して、人の家の中を物色しているとそこに涼しげな空間を見つけたそうな。それはどこの家庭にもある冷蔵庫だったそうな。若松区民のために尽くそうと考えた彼らは第2の故郷を若松区の冷蔵庫とし、平成21年2月28日よりそこにこもるようになった。

これにより、若松区民は、冷蔵庫にかっぱを飼うことで、「もしも…」のときに助けてくれる力強い友達を見つけたことになった。環境に配慮した取組みを進めている今でも、ずっとかっぱは若松区民の友達である

冷蔵庫でかっぱを飼おう!

地域部会

あんしん情報セット誕生物語

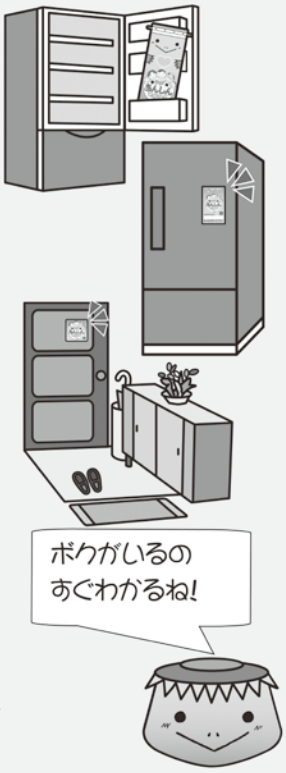
⑬

ぼくのことかっぱのこと

自己紹介は苦手だ。でもぼくのことを好きになってもらうために、知って欲しいぼくの事。

⑭

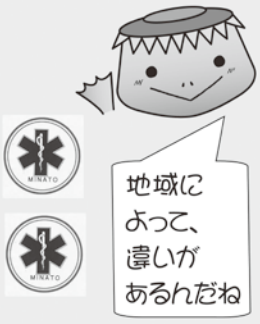
□住まい 若松区○○○町冷蔵庫内
□表札 自宅の冷蔵庫には表札をかけているけど同居人の家のドアにも表札をかけてるよ
□趣味 同居する人の安全を守るため、情報を蓄えておく
□活動 同居人に何かあったとき腹を割って手助けをする
□友達 高齢者、障害者、一人住まいの人
□旅 時々かけつけた人と出かけることがあるが、用事が済んだら必ず戻ってくるよ
□悩み おなかの中身が古くなっても変えてくれないとおなかをこわすこと。



ずっと友達でいたい!

⑮

港区の救急医療情報キット



情報の活用者=救急隊員

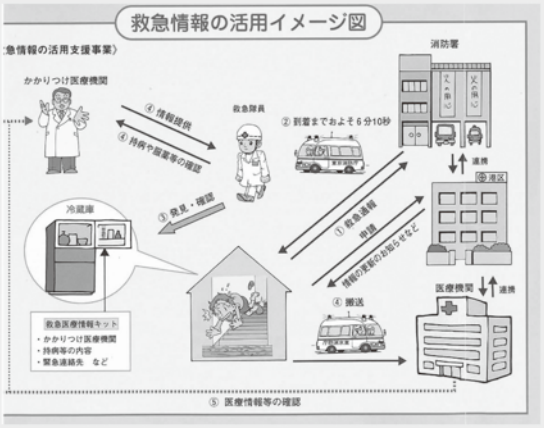
若松区の専用容器

情報の活用者=連絡を受けてかけつけた人

安心は同じだよ!

⑯

先輩から学んで!

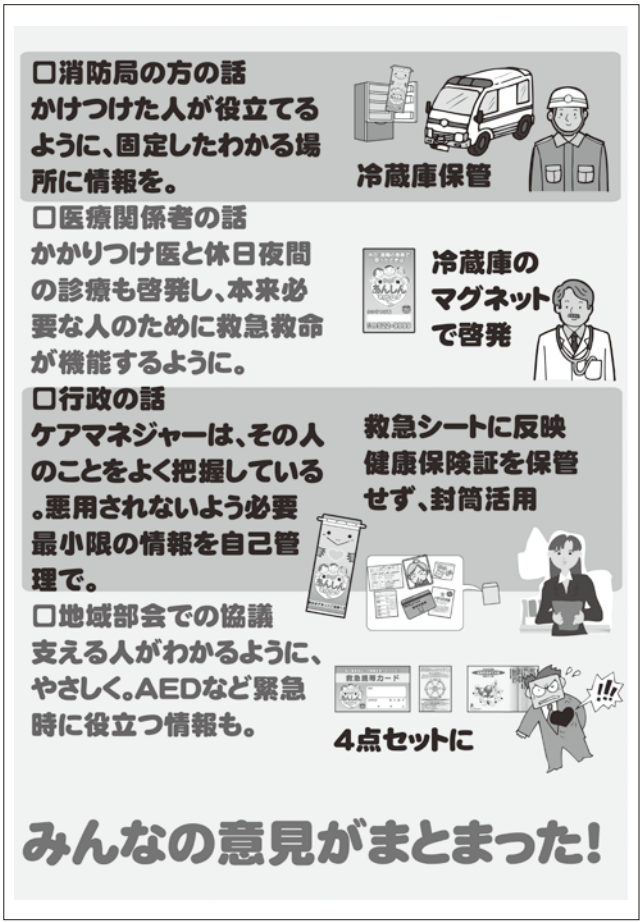


ボクは後から生まれてきた。先輩のいいとこを見習ったので、いい子かどうかはこれからだ。

あんしん情報セット誕生物語

⑰

⑱



⑲

⑳

あんしん情報セット誕生物語

㉑

不安なんかへのかっぱ

財布に入れると
「私の緊急時にこの情報を使ってください」の文字だけが見え、下の個人情報は隠れるようになる。

友達もすごいぞ。ほんとに4つの安心があるったら。ほんとだから。

㉒

なじみの「ホットライン」は、ノートになってマイナーチェンジ。自由に使ってね。
さらに、こちらもなじみの「応急手当のてびき」は、今すぐ使える知識と技術が学べます。

旧友と新しい仲間の出会いだ!

㉓

情報を悪用されないように自分の責任でしっかり管理しようね!

冷蔵庫でかっぱを飼おう

若松区で安心して暮らしたい。それなら「かっぱ」を飼おう。「かっぱ」と暮らそう。

いつまでも一緒にいようね

㉔

これからもずっと一緒だよ

英語やカタカナは難しいと、できるだけ平易な言葉で表現。

保管する専用容器だけ見ても、情報がわからないよう配慮。かわりに、連動するシールマグネットと同じマークで連携

あなたがぼくのそばにいてくれたら、ぼくもきっと役に立ってみせるよ。